比翼連理花廼志満臺第四編巻之下

東都　松亭金水編次

第九三四

其時お滝ハ紙治が膝を、チヨイト突て滝「ヨウきいてお呉なさへヨ 流「アノ去年此のかた見る通り。煩ひ續けて寝て居るのも[illegible]十二分のことでもないが。今迄の一件よハ[illegible]て。其像滝をもとゝ云て居ます[illegible]お心持でござりませうがよく小萬さんの方[illegible]

唐人遊へ来まかつたのも。何様らいふ気遣でといふ事が所く
地とコろつて。何卒お茶れ気を遣つて。唐茶おひめの
盃ゆ。あく小玄さんと内肉宝さんに悖く、お呉まさ、御来るると
いふて私きやう地へ縁付るの不首尾関こへ座敷お呉まう
すると申。まこと家内へ来いとおいふるう。お茶れの家内へ往て
小玄さんと姉妹分に成く。漸く志まするう。キョウいと見るに
たとへ国宝不義者がれ。別の若様がてとみて姫ぶらしい
その内の旅人も社ませんヨごとく私の身で姫着させ

ぞ苦痛と貪欲に執着を[illegible]させらるゝ同類に[illegible]横をかけて押付てあげ[illegible]とりて気[illegible]しく[illegible]ふるゝ[illegible]ござる会[illegible]のわれへすゝ[illegible]お名ざらうが。[illegible]中しくこつので家に[illegible]八百万[illegible]とのふ[illegible]。[illegible]とやうホト[illegible]カ[illegible]気にあつまりしゆゑ。お[illegible]ありぐ[illegible]さの[illegible]まりて[illegible]お居るなれは。その[illegible]云[illegible]このみを[illegible]ごとくなるつく[illegible]車来ずつく。[illegible]で世話をしてお居るなれは。一生のお願ひごと云ふはその

爰でござりません。エヽ。エヽ口惜し。以前は経済の学問をして
て若かりしが光陰のやうにて「張」御用と云訳ハ堂ゝ也ねへ
のスバおかし言葉御様子気を付けて。それ手様ゞてのをいふか納
ねへが。サテ御様子も困窮不足で見ろもかたつ正月内衣様お気の毒
おスりも儀様へ衣様子しましやノ何時までもさぞ衣へ
気ハ、衣て世話をして居るも仔細ハ様へ母くらめのく。其の衣ぜ衣様
してもわ末の親ハも清まふ世間の人にや思ハめのくと
出、袖しめら衣く何ぞの嫁にや。後様をきっとまるのも隠ま

ところを仕出(しだ)し絵図(ゑづ)で放蕩(はうたう)の家業(かぎやう)と世間(せけん)へ志らせ[illegible]古翁(ここう)さんの[illegible]
[illegible]まうしますのでござりますよりやア自身(じしん)がいゝ悪(よく)なりまして[illegible]
其処(そこ)へ沢山(たくさん)な[illegible]が[illegible]らうぜ。まくら[illegible]が[illegible]翁(をう)さんまで[illegible]
かけて気(き)の毒(どく)でけれど。チヨツト此方(こつち)へ子[illegible]も[illegible]。[illegible]
が左様(さう)いつても。チイまといふ[illegible]へト吹(ふい)てお縁(えん)へ腰(こし)をかける[illegible]
る爺(ぢゞ)さんが孫(まご)の側(そば)へすり寄(よつ)て[illegible]其(それ)ではお前(まへ)へ[illegible]
コレ〱私(わたし)も否(いや)でござへます。何ぞと[illegible]
[illegible]

いろ医。者イトヽいろどもやアるへけれど。今更（いまさら）和（うはさ）薬をこぞ（むや）おやのかへし

元（もと）の白地（しろぢ）にしてお返（かへ）し。若様（さま）よりや。やお薬種（まんきん）と遣（あつ）かふもの

他人（ごにん）でござる。御病家（どら）がたへくもどし（たい）てもかへへおやまい

むかしの気（き）にしてお返（かへ）しヨ 此（これ）アヽコレ女 咽（のど）が痛（いた）へてならぬもの

と 懐（ふところ）も紙入（きて）のはしばかりへのぞき ヱヽアイ 効（きゝ）目がありません。ねこ（て）おつきまへ

たべてお薬種（まきん）の気（き）に立（たて）も寄（よる）まいと云薬（りやうせいぐわん）ばかりでござる。この

を まゐりやア。ござへお薬種（まんきん）が効（きゝ）をおこそでござらうが 百万（ひやくまんべん）多羅尼

鐘（いろ）ミしおきやう（きやう）せざらうが。和尚（わちう）諸（もろもろ）くしても経（きやう）の御（むし）利が延（ぶつてん）命

ありませんハ大方お宗門の了簡じやア。どうせ[illegible]むづかしい

ろう。私き[illegible]しろ縁付て往て居て。そして小ちさんを[illegible]へ

お入道のいはれるがそりや。ボンニ今腹立酒が毒とある。一私も

[illegible]の[illegible]の女郎でござりまする人。歯から[illegible]出しておくことを

[illegible]くりません。悪[illegible]らしいのハ[illegible]の[illegible]ども信心

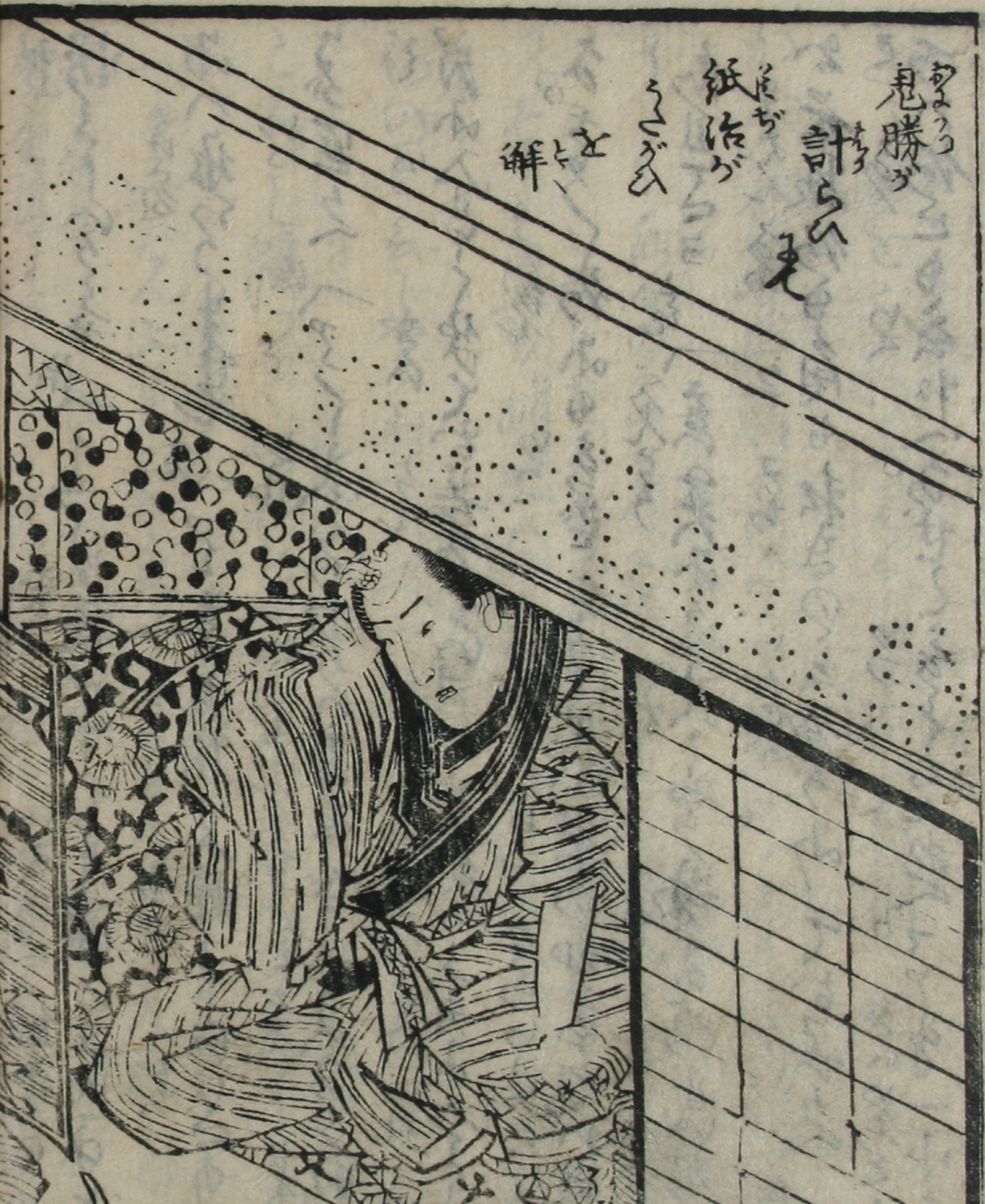
とんちやくいたしません。大切ものを[illegible]私ぶ一生の[illegible]

みんな今く私まで[illegible]して居る。ちやアしたらお宗門[illegible]ござる人の

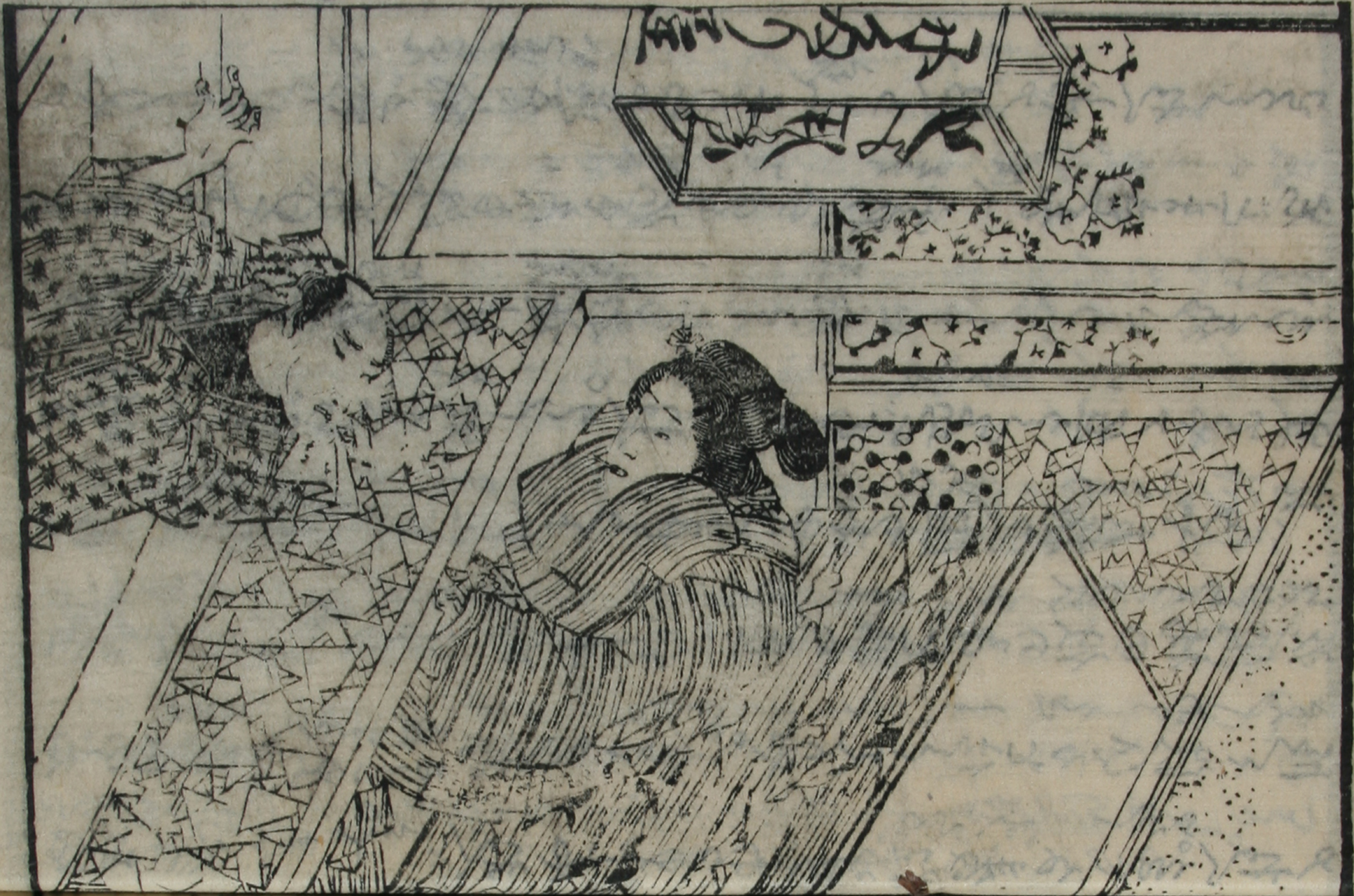
[illegible]かり[illegible]利して[illegible]て[illegible]気が揃て[illegible]て[illegible]

ござる。御を其方様よりなどゝ云。今屋根へ登て順女兎を五疑のかへ。左様の悋気もめぐりいけやうもヨ勝ろしいへ日々ギツク底るのへ別色ぞ。御もおこぶ平気よ成て居る仕打へ自のヲ。モシテ空も嫁姑へ出られ。といふにのかゝや。順女を見るへ御のと云ぶやられへり。それが嫁姑で私への心とやといつても経なとあつと満つく御様なるめゝぶ。それません出ましく云候ござりますへ今一ばん上品と云れさ。私きの気へ左様ぶやうなへ泥ふ気を棟して憂て御飢を風が吹くといふ様な良へ差して大きて

晴（はれ）しいくらサ　浜「イヤ御（ご）ぞろりて。雨傘（あまがさ）のちらつくを生（い）も提灯（てうちん）
外（ほか）へ御出（おいで）ありません　喜「つゐ（い）まう此極（さくら）は晴（はれ）しいほどもの余（よ）もなし
らぬ匠（いさ）みさへ　浜「アヽ来（き）ちやりかりへ来年（まつびら）ごへ　喜「夫（それ）まう私（わち）きの寝（ね）ぶとを
身（み）に入（は）れてくれてお呉（くれ）なんしヨ　浜「先刻（さつき）から身（み）に入（い）れて居（ゐ）られ
ますゞらく御（ご）出（いで）の時（とき）ござりよしサ。お前（めへ）の御意（とうらいきやうぐ）見（しん）揚（あげ）の千夜（よ）まで
しれたことヨ　喜「兎角（とかく）真実（しんじつ）之（の）是（それ）ましやら情（じやう）の済（すみ）しいわいな。そんならば
お前様（まへさん）御（う）角（かど）に私（わち）きの云（いへ）ふ事（こと）なりとしてお呉（くれ）なんし　浜「御機（どう）嫌（ぞ）も毛（け）
此（この）所（ところ）も云（いは）ねへでせうといふ云（い）ふたん（ら）ぜいたくも起（お）きアア気（き）一小（しん）辛（き）の仕方（かた）も



鬼勝が計らひて紙治がうらみを解く


子かみゆひ屋

ミろ〳〵ねへじやアねへか　云(いふ)へ　そりやア勝手気儘(かつてきまゝ)が御せんすりやア

岩とまさらか　浩(ほう)へ　金(ゑん)と家(うち)らの事(めく)も商(あきな)ひも遊(あそ)ひあげてするのと

ミろつ　今からへぼ。まア親爺(さう)さんともお相談(さうだん)して道楽(どうらく)をお仕舞(しまひ)な

そ　実(じつ)やア迷(いや)うて居(さうでも)ても[illegible]しねへ。ヨシ〳〵親(え)がべらぼう小言(さな)と

云(いふ)へ　ムヤ左様(さう)かへ。温(ぬるさ)めかけ[illegible]トお三を雇(やと)ふが留守(るす)二階(かい)へ

ちへおもらう　我(わが)酒(つさ)樽(たる)の底(そこ)の身(み)を探(さぐ)り。逆(ちうぢ)一升(いつしよう)して湯(ゆ)を注(つぎ)込(こん)で

ドツ〳〵あ〳〵　旨(うま)い　汲(くみ)ながら、能(よく)手(て)を付(つけ)て入りやア。今(いま)一ツア、嬢(ぢやう)さんとみんなさ一杯(いつぱい)ずつ召(めし)のみな

マねへぽいろ〳〵ならぬ喜(き)狂(きやう)いせがあるもんじやねへの云(いふ)へナマや八公(はちこう)おさく　お猪

マア。マア二階（にかい）へお出（いで）なされ。今旦那（だんな）も来（き）てお出（いで）なさるから　婆へ久しくお顔（かほ）見ろ

夫（そ）よりアー〳〵よろつさト急（いそ）しく二階へ上（あが）りて　婆「コリヤア旦那（だんな）よく

お出（いで）なさい申しました。サテ先頃（さきごろ）小春（こはる）さんの一件（いつけん）に付（つい）ては女児（むすめ）

も何（なん）ぶん毎日（まいにち）寝（ね）ても居（ゐ）ても〳〵。イヤ自己（おのれ）が揃て扱方（あつかひ）をして

とんだ事と今日（けふ）ござく小春（こはる）さんの宅（うち）を尋（たづ）ねて参（まゐ）りましたが

イヤハヤとんだつまらぬ事（こと）が出来（でき）申して子。大騒（おほさわ）ぎの大縁（おほさわぎ）が

恵らし。夫（それ）は申さんよ。マア間違（まちが）への筋（すぢ）も分解（わかり）申しさト

彼（この）お吉（きち）が来（き）て。此上（このうへ）を恐（おそ）れに二人を結縁（むすび）のりと

ゐ云かけしるのより仲人を入かゝるの縁まで立会を預
かりしるゆ。まより孫道へ往て外の人と紀しける私
小茶が宛に形容よからぬ行状を流せしが彼紙治
よりの仲継を受取しを書を読。喜諸ハ去ることゝ
素が方へ立戻り。是を読のべ小茶が老人て。冥想の
母やまを慰め鮎しくも鄭山頭云とゆふ人あり。さ
すまべき人殺見くもが手紙とかくしけるなるゑ
然るに手紙いろて私の一分詫の場合

落ちりしあらん。猶よかく合点のゆかざるものゝ多けれども。小姓が傍にありて。手紙を見ながら。珍談へ落ちざるゆゑかなき仔細は。[illegible]よし。都ておちもある物語

注「今するたまきの流首方でござへ申しさ。夫じやア全く手本手紙と見ねへのかな子。勿論其さへ珍談ならぬ役の男も。手紙男ぶりことしと云[illegible]旦那[illegible]と[illegible]が。髪結のお吉めが其手紙を持て来て。私を泥棒だと云ふ大胆女だア

己が位牌を持仏へあげて。他人と同行どうしだと戒名をつけ
あがアやア。此方も男だ。無遠慮へでも引出して。ギウく云はしてく
申るまくハちやアあるめへと。立かゝつとお滝と見勝ハ関きゑて
おし止め　滝「コレナ思邪何所へお出なさるアヽ　お吉が詞へ。ハテサテ
なんぼ利口でも発明でも。其処知らずにお茶の所で。今お前さんが
其思ひどくお出なすって。彼是と理窟をお云なさるが。女でこそ
あまり一徹女も江へ利口の様で。仲く座振する様な風じやア
おまへやさんらく。却てお互とお錢がまるぶらく　吉「たわいなく

そりやア今年ガぶんだり、まゐりませんや。丁子屋より洞雲の娘さんへ
来るといふのさ。世界押へてはおくりくと理屈を言て気を甘くする
ひいき者すりやア役者子を贔屓でも関ふごさらかしなア、あれりまやせんからも
おやこ人の子がこのまゝ言ても不思也。治「又も役者の事でもある洞雲の娘の
そのおみ茶碗 嫁「お役者の世人まゝ、まあ洞雲の娘か小妻さんも
此所へ来るきる様ふござり。丁寧直少世人まいらせ下さいまし
紙治も郷の嫁り解け 治「サア又あゝでござい、おほ様なあ今の
かの一杯喰せた。何ぞ奇を拵て見る人トさ

よんで酒殺と渾名し。嫌ふ酒宴より其夜の手紙認め由論したり

第廿四回

酒をのむべき所物よ。日中より明き夜の騒がしくこゝに

かゝる。時しも一日來る一個の女すると途中へ〳〵いまふらやの樓

さんごらふの支度でござへまするへ〽ハイあちらでござへ

ますと。お客さんへ御座敷へ〽女ハイ私の朋輩の春と云者で

ござへますが。國所なれお宿はお家へ〽きんハイ宅でござへます

ト云あげく気さく奥へ行べ。行つく所の鬼繫へ二本越の

大評判な本。作者[illegible]の名人を志め。[illegible]の[illegible]
[illegible]網[illegible]へ入を行つて[illegible]さげて。[illegible]〽アア
お君さんか。サアお上んなせへ。でへぶ緩りとお出なさる 〽ヨヤ旦那
[illegible]ひとりかへ。モウ[illegible]でらん[illegible]て。[illegible]の[illegible]
き[illegible]だちぎらいまんが。今晩お[illegible]まぐらく[illegible]のましく。[illegible]
るさいます。ト云ながら見世にある[illegible]の[illegible]
の所へ掛る 〽トキニ此間の一件を。紙[illegible]さんにも[illegible]
そりやア[illegible]にも[illegible]。初編[illegible]紙を

山ハ富嶋の掠殿なれど。小き[illegible]の丘へ走ることも遠き人が行根して

まが言う擾イの旅千所ころ。行すろも様子[illegible]も知人ものを

[illegible]掛降りをして思案を付ら一ちやア[illegible]ぞ。そーて一家の

才回んが行程の今を拾て居るりア[illegible]なれへが。自己ア不

貧乏しても。自己で[illegible]経べ行程ら[illegible]様ら立ろふ。行[illegible]

の継金あんぞと。同居る様な見知らへ根生まれへ。帰りのなろ

あるしハうら。十二時[illegible]ろ私懸丞へ[illegible]ひ出ましてまで[illegible]をてゐる

[illegible]ろとぞ。[illegible]まじやア[illegible]へそーて[illegible]の[illegible]すぞへ私が[illegible]

丹ぶろ。高よう對談をして。かの様に毛頭のおざア満はみ鑽を
御若ふと藤中ト云て高く座中しにし尽ると小十郎お妃く
女の手で仲／＼手跡まいろうもと佐様も往中寺しヵの込アお手
塗翁がある世ろ。書手紙が落てありしかのでお高調の
うらめぶうしいうと思ひ込まるの中前の様とぶつ人をみて波と様下やう
で此ノ人筆が字様を習とする人の仕れ人ちあ大様た落て
見るせん。ハウある吉さん。ち様よやア様人の書へ手やして旦那方様ち様
ちやア大きな此筆蹟に違ひ申すまい二間堂の額まで自筆が

渋(しぶ)と付(つけ)てゐるとおもへなさるが違(ちがひ)さ。心(こゝろ)をお前(まへ)さんの

自(じ)を云(いつ)て見(み)せて居(ゐ)ますが、今(いま)の様子(やうす)をみると、お国(くに)の花(はな)

ハ若(わか)くのがまだで、寄(よ)らうが、私(わたくし)ハ手(て)がつゝ。面(つら)の皮(かは)で勿論(もちろん)紙流(ぐち)

さんハアノ徳(とく)えめへ多葉(たば)しと組(くみ)て居(ゐ)なさる和(わ)し。目方(めかた)の於(お)て

居(ゐ)る金(かね)なんぞを目(め)にかけぬ仕(し)うちだるめへが、小(こ)丸(まる)ハおまへさん

算(さん)のいろはへ障(さはり)ぶり。あく志(こゝろ)ざし振(ふ)りけれども、ぞんじやアねへく

根性(こんじやう)のわるさまて、誠(まこと)にいけねへ女子(あま)がつゝ。随分(ずいぶん)その手管(てくだ)をば

仕(し)うちやせんが、夫(それ)ぞれ所(ところ)白波(しらなみ)とうつ物(もの)さ。出(で)る所(ところ)へ出(で)てきく

詮議として貴みを尋ねへ。行くごのかごのと使君ありしもけを
お剣なまくろうらうぞよのや近頃其様様卜云アあるかへと尋ねく
可満月を三日とはもの結て清まし。行の清まし相へ。ぞんなら
まくらの寺を祈ておい呪を付へ。行でも見てくれこと首しぐく
一ろ罪ろ云われけるを。私の様が函れへ卜云われけて身とする
紙の面かてやの張かりしが。嬉し薫て顔を出へくて出者
きんるへしく室れへ。余もお妻君でよく御注意を下されますの
此日おい気になるの顔へ。私でもが返事をしとの。答礼として

のと縁るは素生を海鼠[illegible]にて。[illegible]私を

[illegible]を論い出る西人[illegible]臆病の事よりもるがコク首国の

身と云ものなく。[illegible]の術の羅うつり紀しやせう

丁度今夢小夜もふけて人来たるが。[illegible]経も云

やアこゝの[illegible]で[illegible]方を仕様が。術つくる遠へものか

今きこへ彼是は来るめんまへ。二アノ首国も二首国ごろんだ娘が

何と云こともなく。片端の[illegible]人を[illegible]く。[illegible]も

志[illegible]と云根性骨の[illegible]。[illegible]

[illegible]る位の[illegible]ざ。浮世也ヤア是天[illegible]があるヨ。[illegible]るよく
ぞろつて年中[illegible]ぐろり[illegible]ろう。[illegible]くれ[illegible]母アを
[illegible]が ある[illegible]の[illegible]所で[illegible]に云[illegible]下レ笑[illegible]せうト
侍を[illegible]お吉が[illegible]へ[illegible]として[illegible]。[illegible]の お吉も[illegible]の
胸よ トッ きり[illegible]。[illegible]も。[illegible]る[illegible]の
[illegible]鞘の大小つきし。[illegible]下 奴の侍が。[illegible]
[illegible]入。[illegible]とゆうるより[illegible]人へ[illegible]もせば お吉が[illegible]。[illegible]
[illegible]引倒せば。お吉は[illegible]見て ヘ[illegible]や[illegible]

お前何様しやるぞ　孫へ「何様しても大細女子じや。サア金を返し

ある事　吉へ「エ金エ。手様するの知らぬわいヨ　孫へ「一、さあねてといふ

あゝそめのら。手前方が欲ぶかの蔑情へ。話しても其方も知つて飛

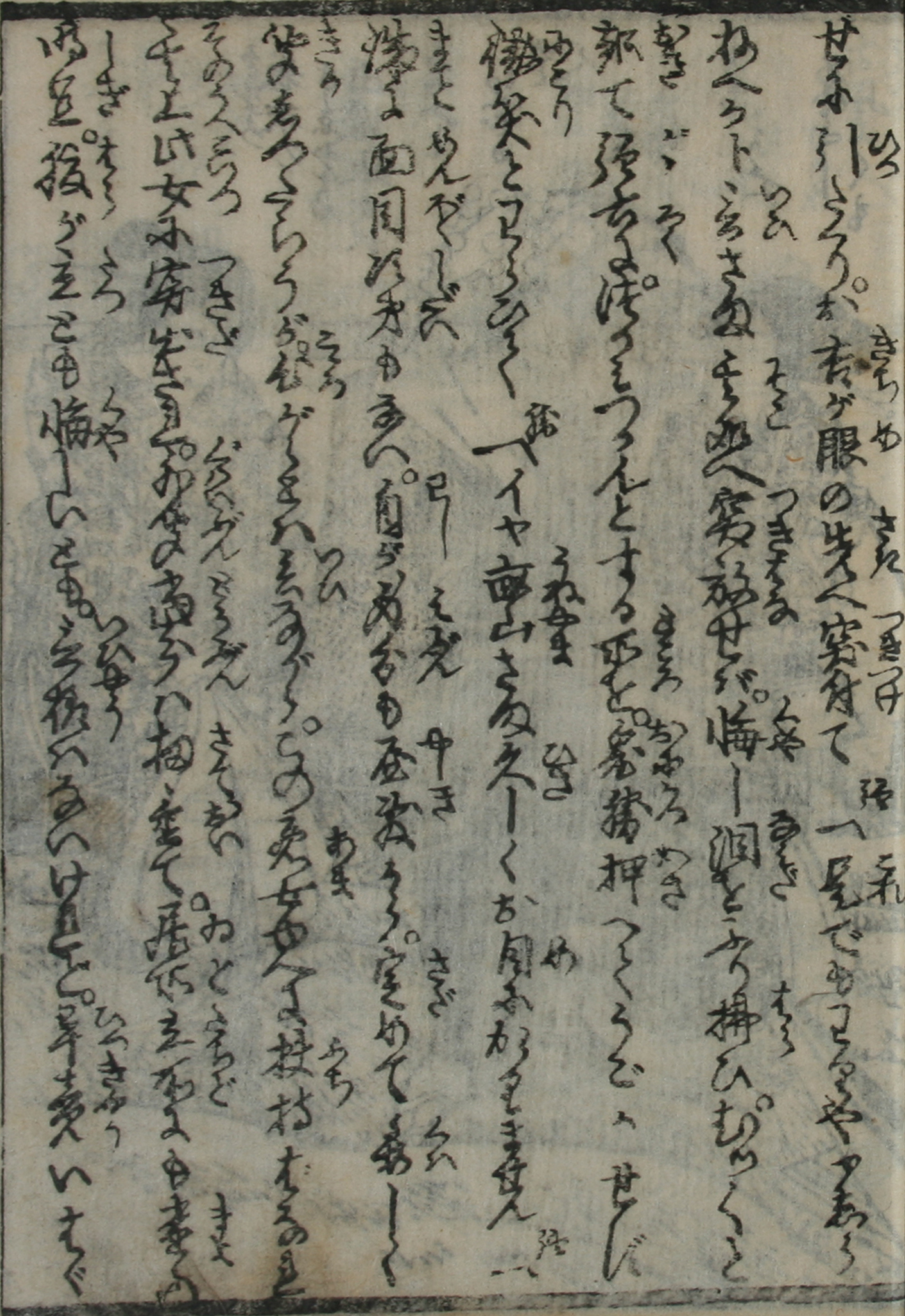
るが。今宵一人ならば当地の気味あしけれど。殺して其方も知つたる今が

ろう酒を過しつけて。酔もせずに後も自門縁舟。ゆらりくと

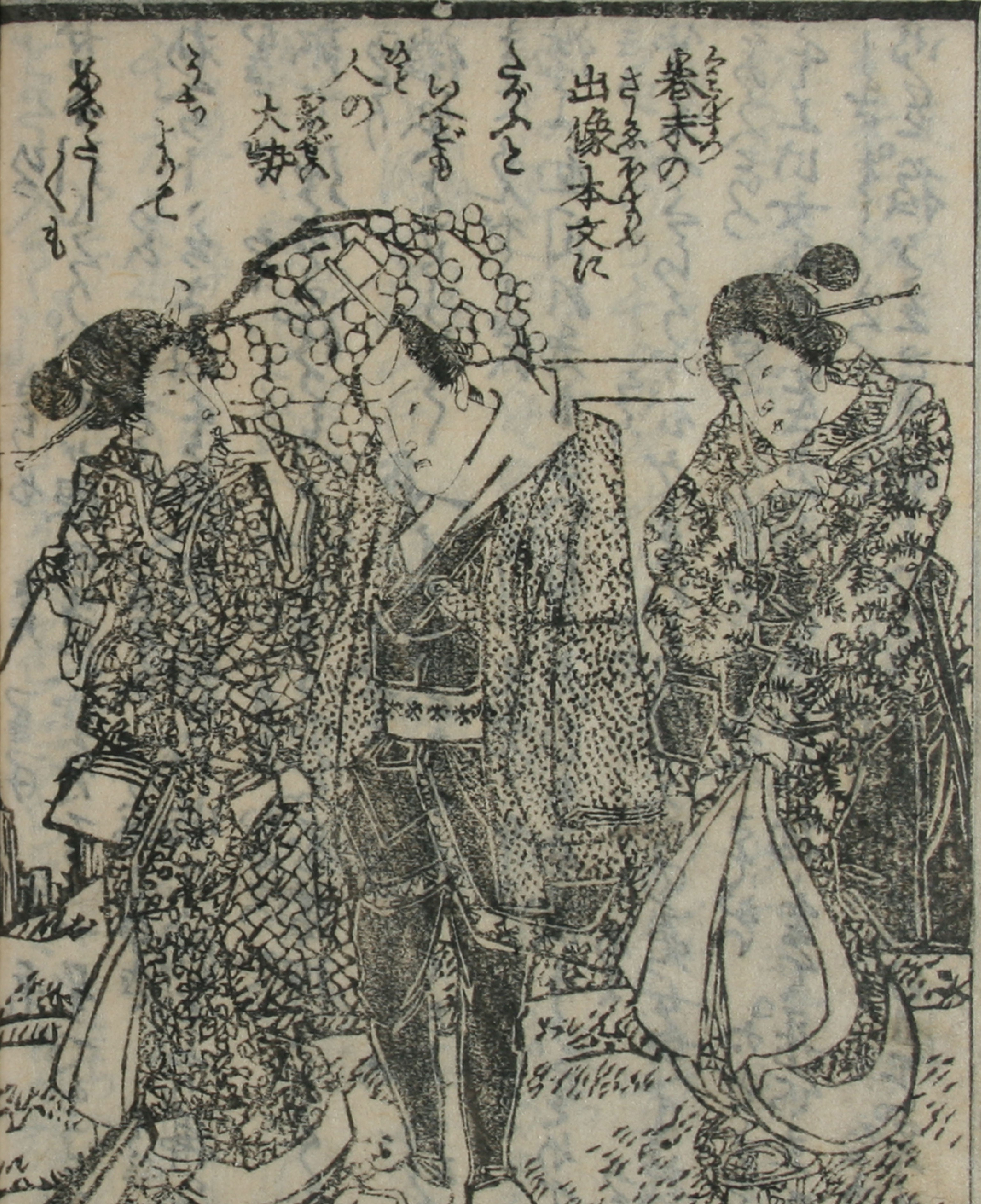
とうの腹よくく。様子の新へ渡込て。胴巻がらみ引ずつて。どうくろへ

てけいく手前方の遠くへねんぐと出きりて目でうが手込てよまするト　お吉が後へ手

とまつ入て。引出しる胴巻ととも、こちらへとお吉が様子をがまう

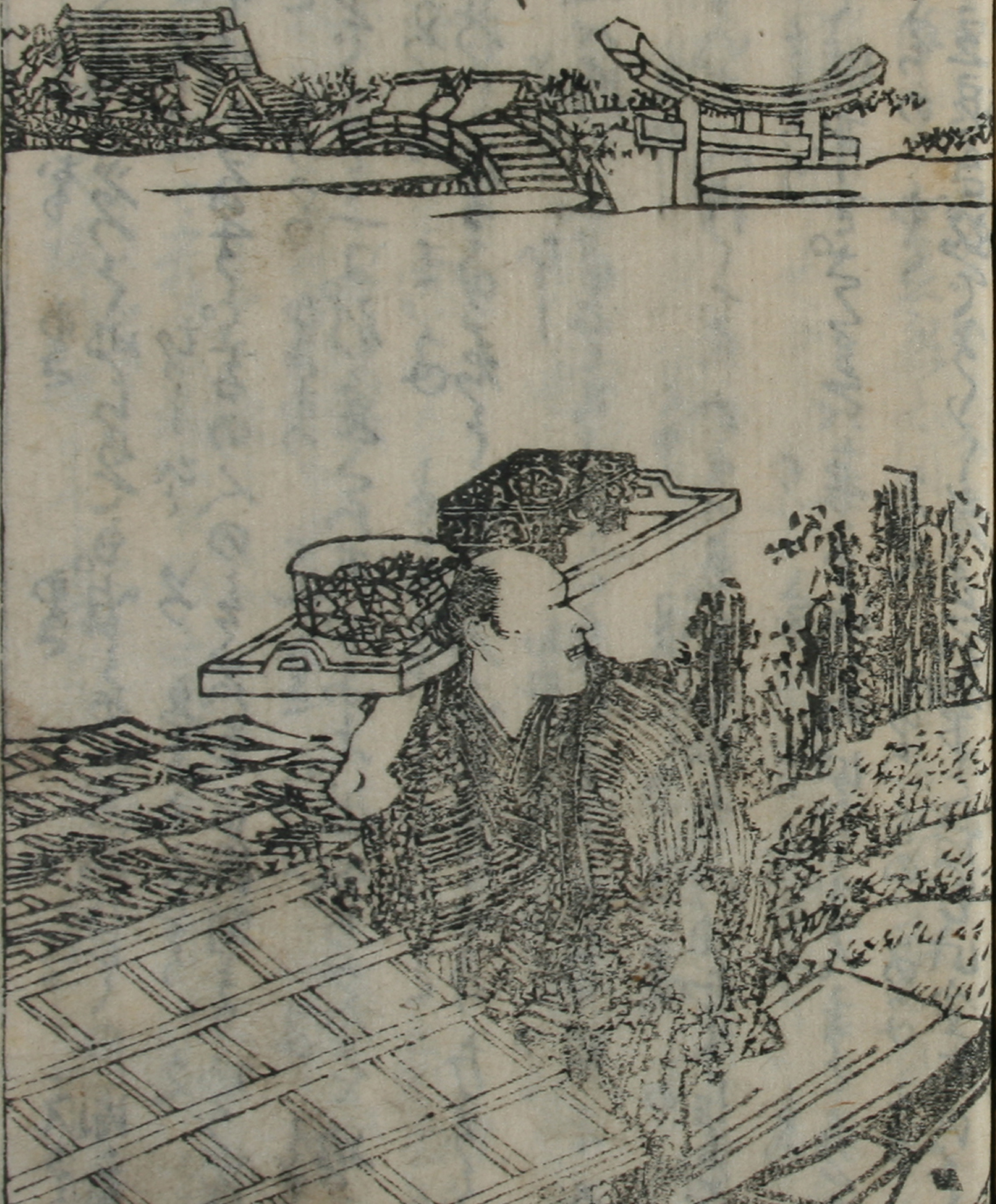


甘すら[illegible]ーとゝのへ。喜ケ眼の先へ突付て一足でもうごかばやらう
ねへうトいゝさま手を突放せば。悔し涙をこぶしへ。むせかへるを
郭で[illegible]すよぼ。ほそつかんとする所を家猪押つくるでは甘し
[illegible]とこらへて。[illegible]へイヤ南山さま見へーくお[illegible]あ方ものま[illegible]見ん[illegible]
まうとめんどうじや[illegible]よ面間[illegible]来ても見へ。自分の身も[illegible]かへ。定めて悲しく
[illegible]の老ろくとらうが[illegible]ぐるゝをは。この[illegible]女人の[illegible]持たるの是
そのうへころ手も[illegible]女の寄せ。おかの[illegible]へ[illegible]に。あて居所まで由来
[illegible]直。[illegible]ぐるをも悔しいさま。こ[illegible]の身へはけ見ど。[illegible]いなぐ



くさざうしの巻末の
きうあまたあれ
出像本文に
とぢみと
いへども
ひと
人の
寫真大妙
うちよりて
あそこしくも

古風は　かわらぬ
其まゝ玄孫
万歳の後
夫婦姉妹
むつましく
物語まる
その絵を画きて
この
冊子の
大切とし



爰らへ出し。錆と見く[illegible]ゆらあそも。咱しあらまぬひ[illegible]の園に猿

人形して巧とる手ぎはの人の言ぞ。自河町より續け

きこへし者で程なく一子。出生天の与へか。彼奴が金を[illegible]

ふつけく。我を恐るの意と承知。ゆへ背けるのわがる

え八と以之ば隠を知[illegible]をきゝて見てゝ自己が金。取ても罷ふる

つまや甘まへ。大人欲くば文でも。おらぬ気性も知て下はば

突倒して懐中をさぐり見れば[illegible]に違ひぬ此金。ぎんまくあく

其場を立退きし跡でよくよく見れば命と持し此金を。ぬすぐ

ところへ[illegible]洞(ほら)の[illegible]を尋(たづ)ねて。[illegible]よこせと

[illegible]もつて[illegible]も。[illegible]して申(まう)さんとお[illegible]宅(たく)へ[illegible]して[illegible]

[illegible]の[illegible]して[illegible]などのと申(まう)す小書(こがき)を申(まう)して見合(みあは)せよらと

いふと。申(まう)して[illegible]宅(たく)へ連(つれ)行(ゆき)。[illegible]の一(ひと)。御(お)[illegible]

手紙(てがみ)を認(したゝ)めて。[illegible]とするところ。サア其(その)手紙(てがみ)と[illegible]

[illegible]の[illegible]小書(こがき)を尋(たづ)ね。例(れい)も[illegible]の[illegible]。[illegible]

一(ひと)つと[illegible]して。[illegible]と[illegible]へよ。[illegible]手紙(てがみ)[illegible]

[illegible]捨(すて)て[illegible]。[illegible]まで[illegible]の文言(もんごん)。[illegible]

色男かぱかし一姿之ば心得し。押隠して色男に待ぱ若げをきさもて

らざんと後思く慎みして若らね良ぱまより他念の情なきで。寔

酒の和の一の一勝。房ひみも婬女ね、ても手紙落して二の水田気ら付とも

夫婦へ罪も穏当を入へ。二人の花へ若男をひとへ。今自か

過りぷや。懺悔だろりとさゆうえ。其盤へのもして出じとし下

婬のく小まんを出へチヤンチ膳よしいね。当下和きぞ堕落へ

徒者のでぱ紙派さすぱ後をとしてぱ和きも在程あいきとも

二まへらうぱまよやア去ぢ酒を上ゑへけれやア匠をつくされへ

コレサア金をかして請取る貴方がアてよく見て見やアれ貴方がたが無心を申さるゝ
に我らが取らぬ銭をモウ仕舞はしやれ貴方等へ
いふ
例のおかへしぬ隠し事はないぞ。ドキ二郎お吉。今晩は一価一仕舞
て居る
貴方もこのやうに世の中をあてにして私の一分金をもつて自身に年始の
ふところを見てやる貴方も無心を言出さうとする浪人しやう筆まで寛堂を
といふ大胆仕方。親の因果子に報ひ姉の因果身にむくふ
など
十両や二十の端金を返さずとても構もあるべくそれを自己
を退出さうといひたてて我等をかまつて見るがよい

此方(こなさ)は後(うしろ)からおそいと白眼(にらみ)つけるで此殿(このとの)さんがお吉(きち)にしつこく泣上(なきあが)り

〽アノ跡(あと)に寝(ね)て居(ゐ)る人が可愛(かはい)がするあの二階(にかい)のあの冷(さ)めた酒(さけ)と魚(ぶちとん)で

持(も)つてる金(かね)と云(いふ)事さアや。盗(ぬす)み(ざう)織(ぞうぢ)は遠(とほ)くへお出(で)なさるのが利(とく)を取(と)つて

かへの出る時(とき)は(よぶん)。二百両(にひやくりやう)出すつもり。五百両(ごひやくりやう)出すつもり。手前(てまへ)もそれ

程(ほど)じやアないそれぞれ(ことく)へ。云(い)ふ事(こと)に金を取るも無理(むり)はあるまいに。そりやア

塩梅(あんばい)がぼつくで。まア母(おつか)さん貴方(あなた)と出合(であひ)は無理(むり)の上サ。女(をんな)ざとやつく

身(だろ)の(...)みて。それ(ぞん)様(よう)の理屈(りくつ)をいふ(とひ)もせずとやつて。それは下(ざ)行

爰(こゝ)へ母(はゝ)の世話(ぞうり)をせんで。それ(それ)を願(ねが)ふて。今(いま)一(ひと)筆(ふで)お頼(たの)みんで

上ろうろ。覚悟してお座敷さんへト硯出し紙と紙袋出すト
ろう滑なめせん先刻自己が云ふ。先生中の御の一得に御根子の
サア云ふ所きとして往る事人もも云ふ一册さが出来ねへなア。誤ある
我よ西へ我つて吟味して世界にはやアなる我へなん不女のるす
ごとまつても誰まりるまる能猿手狸の死くるは眼にも角ゝそも
猫の死くるは猫尿で逃せうと云ても逃てもものか。計村にも
其他茶がきゝるハべきと這回の一得も萬みも是へのまへ者ま
様々な恐な々け。是ときさりぬすゞ猿りゝゴレ生ま膳へかの

紙屋治兵衛ハ十で金万両といふ身代ぞで手紙を恵兄と
称ら連ちやア。一家一門までの暖簾を汚した。後世まで今
近頃。その親爺を立て黄ふぞ。その一情が尽ねへから、ずいぶん勘当
聴もさせねへぞ。上月頃よ敷り紙治が勘当書丈も高くま
眼つけまだ。泉を御帰りまね髪結のお吉も見ん哀れ
色青ざめて云ふも出ざりける。家ひ出すとわざく。家猪ハ
お吉に對ひ「云までもねへが行ふまゞ一旅に茶の仕舞が
兎へ源太さんのおやじぞも。仏まりお茶が家結で不人情と

するのゝこゝろ。継生の方ハ白露ハ乱を生ずるもとゆゑ自の縁ゝ
湯ハ蔵しイこ逢て洞毛ぐるまハ金とみえと云。されバ恵さんがお前が
盗賊じや。シラミでさへ古来へと云訳じやわへの。されども櫛へ上る
ミ垂形ハのミのとうさむうゝ義ハ勇も紙治さんのやうに思ぞ
今の様ハ云ひふらする者ハ早まるへ。併ながらお前が臆面ハ任すと
する女への為じや　一言黙然とひとぞくして愚礼ゝある人の
ゝ云ふ事を笑気のごとき毛年役ハ侍へ送りて。誰云ともなう
しばそれしハ大きな小事。誠も有て生まけ見ども。行様どの

籠城このと小理屈とぞ云ふかへて山ア構ハ打入ト[illegible]今ハ又

に[illegible]方あけとぞハ[illegible]とやて[illegible]と[illegible]むかでも。[illegible]ハ[illegible]に

向ひ七兵衛の一件なり。遠国のことまでかち[illegible]る[illegible]へ

アまて侘言をすべし。また後言對ひの一がおくる

子。金ハ。お宝に[illegible]とて見る金まで。途中におゐて

[illegible]身分とハ。今ハ武士の取りおもあつかひ。是等の[illegible]を

あつて。今まで[illegible]と[illegible]又。お宝に[illegible]り。以[illegible]も云

ぞん

[illegible]の[illegible]よし。[illegible]の[illegible]さま[illegible]の一件ハ[illegible]りの

[illegible]て[illegible]が浪人の[illegible]を[illegible]く[illegible]に[illegible]一が[illegible]ハ[illegible]て[illegible]の[illegible]る[illegible]く[illegible]が身を殺されるよふえようさせる[illegible]も[illegible]帰参(きさん)[illegible]おいて以前(いぜん)[illegible]およう[illegible]を[illegible]けるところ。[illegible]小まつハ遠国(ゑんごく)の[illegible]より。都(みやこ)て[illegible]の[illegible]ごとくなく。紙治(かみぢ)がうらみも晴(はれ)けるめでたし。お滝(たき)が願(ねが)ひは成就(じやうじゆ)也。小(こ)まつを本妻(ほんさい)に直(なを)し。お滝(たき)とも天満(てんま)町(ちやう)へ引(ひき)とり。小(こ)まつと繁昌(はんじやう)[illegible]ぶん[illegible]まして重(おも)けるが。お滝ハ[illegible]の[illegible]中まで[illegible]人の[illegible]を

やり客気らしさまでおしのあくぽにまかせて[illegible]浮気の[illegible]
[illegible]ぞ薬には[illegible]魚の膾さしさかでうれしき[illegible]と
あん。あの言葉に挑ときこえる雛の膝どもおき紙張へる
なるべしめでたし／＼

花廼志満臺第四編巻之下大尾

3500